

# 沖縄語 かわら版

## 沖縄語を話す会会報

第4号

2004年12月31日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正



2004年12月4日 忘年会「フィナーレはかちゃーしー」

「<sup>おきなわ</sup>ご <sup>はな</sup>かい <sup>ちち</sup> <sup>たけーんあち</sup> <sup>びんちよー</sup> <sup>い</sup> <sup>しながわ</sup> <sup>あーさき</sup>  
沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

・『<sup>ことだま</sup> <sup>たし</sup> <sup>くにうちなー</sup>  
言霊』ぬ助きーる国沖縄-----藤井和雄

・<sup>とーちよー</sup> <sup>うちなー</sup> <sup>ちゆ</sup> <sup>ちゃー</sup>  
東京ぬ沖縄ん人ぬ達ど-----上里一雄

・<sup>たましえ</sup> <sup>うちなー</sup> <sup>ちゆ</sup> <sup>しー</sup>  
魂ー沖縄ん人（4）-----新垣清松

・<sup>じ</sup> <sup>むきよく</sup>  
事務局から

染料インクを使用しています。水濡れにより、変色したり印字がにじみますのでご注意ください。

『言霊』ぬ助き一る国沖繩 藤井和雄(横浜市)

我んね一孫ぬ達んかいゝ一りきさる話聞かち  
楽しど一いび一ん。

「我んね一や一、七ちぬ国ぬ言葉知つちよ一んど一。

先じ沖繩ぬ言葉と共 通語ぬチャンポン成と一る『沖

繩大和口』。うりから話する場に言葉ぬ終わいんか

い“グワンド一”んで言う『唐芋普通語』。“バツテ

ン”んで言う『熊本弁』。くれ一沖繩口っしえ一(・・

やしが)んで言う事どいぬ物やん。“ジャケンノ一”

んで言う『広島弁』。くれ一沖繩口っしえ一(・・や

いび一んや一)んで言う事どいぬ物やん。東北地方ぬ

『ズーズ一弁』。また『ブロークンイングリッシュ』

今使と一る『共通語』。二ち三ちぬ『ドイツ』ん

で言びたくと孫ぬ達や「へ一、御爺は、大事！学者

先生だね一」んち驚ち、我んね一嬉ささび一ん。

「ハッハッハッ！、明かし一ね一ど一易むん」やいび

一ん。我んね一生一立ちえ一鹿児島から沖繩んかい

初みて寄留人どっし行じやる寄留商一ん人ぬ

孫成と一いび一ん。

家んじえ一じゅん鹿児島言葉使で一足外んかい出じ

れ一幼稚園から二中生成いるまで、う一まく同土と

一諸沖繩口使と一いび一たん。また一かぬ達と一

鹿児島言葉まんちゃ一ぬ「唐芋普通語」、うりから

大和んかい移で、後一熊本言葉使で、海軍呉鎮組をて

一広島訛成たいズーズ一言葉成たいっし、色んな人

ぬ達とふらと一いび一たくと「ジブシー言葉」成て

洞な一や本当ぬ言葉一時々解らん成いる事んあい

び一ん。

やいび一しが、相手にゆて一イントネーション変て誰

どん話しゆ一すんでち、なやがと一いび一しが、あ

んすか威張て一成らんで思と一いび一ん。

沖繩出じてから熊本、鹿児島、東京んじ長一暮ら

さびたくと、うぬ間何処ぬ洞な一生まれ島やがや一、

本当ぬ生まれ島一何処やがんち考一いる時んあいび

一ん。良一考一いね一童そ一い一から中学三年ま

で暮らちやる那覇やんで思やび一ん。

毎年一回一沖繩んかい帰やび一しが、諸うて変わ

て赤瓦ぬ屋ん無一ん成て、昔一原やたる所んかい

「おもろまち」んで言う町ぬ名まであてじゃまどと一

いび一さ。

誰がなが言ちやる言葉なかい「生まれ島んで言しえ一、

うぬ場所一あらん洞な一肝心なかいどあんど一や

一」んで言しがあいび一ん。あんすくと良一考一い

ね一、我ん肝心なかいあしえ一、那覇どやんで思や

び一ん。

昔、那覇んかい電車ぬ歩ちよ一たる時分、名高さ

る我達町屋ぬ屋ん名取で、「藤井呉服店前」んで言う停

留所ぬあいび一たしが、今一うんな事知ちよ一る人

一めんそ一らん。

昔あながちさる西平小す一じん、な一解らん成と一

いびーん。

此ぬ頃考一いる事やいびーしが、言葉なかえーふる  
ましー力持ちょーんで言う「言霊」ぬ事やいびー  
ん。沖繩口ん「言霊」んで言う珍しー力っし幸し  
事御賜びみしえーる筈やいびーくと、沖繩口使らな  
やーんで思とーいびーん。

うぶむにーばかーじっし御無礼さびたん。



東京ぬ沖繩ん人ぬ達と 上里一雄 (杉並区)

今一、沖繩や宜さてん悪さてん大和をてー何処ん  
じん名ぬ通とーいびーん。

書物出じゃすしびけーのーあいびらん、テレビ、音楽、

芸能、うりから飲食業界んじえー間違一や無ーら  
ん優りとーる人ぬ達ぬ技一、あつたに出じて来よ  
ーる様子やいびーん。

「青さる海と天」、うりから「肝んやーやーと成いる  
島」、「長命ぬ女ぬ達ぬ満どーる島」、「アメリカ  
一兵隊ぬ満どーる島」、「泡盛」、「ごーやー」、「ちゃ  
んぷるー」、「三線」、「えいさー」んでー、読みゆーさ  
んあたぬ肝要な言葉ぬあいびーん。

東京をてー、此ぬ頃「沖繩料理」ぬあつたに  
多く出じて来よーいびーん。また沖繩ぬ仕様っし  
作てーる泡盛んあまくまをて飲まりーる如成いび

たん。くれー嬉さる事やいびーさ。

さて東京んじ暮らち二十三年びけーん成いびー  
しが、沖繩から出じてめんそー来やるしーじゃ方ど  
研究会、うりから同窓会、県人会そーなむぬんか  
い出じて行ちゆしん多く成いびたん。

あまくまんじ開かつとーる会ぬ様子、いふ小うんぬ  
きやびら。

先じえー、「JR国分寺駅ぬ側んかいある公民館  
をて毎月一回日曜日に開かつとーる「八重山文化  
研究会」やいびーしが、くれー昼間ー3時間ぬ講演  
ぬあいびーん。うぬ後一場所変て、「課外授業」ん  
でち酒出じてさーふーふーっし、遠慮ーさん如言ち  
やい反ちやいっし、色々ぬ意見ぬ出じてちびらーし  
く成いびーん。

また「JR大崎駅ぬ側んかいある会場」をてー  
「沖繩語を話す会」ぬあいびーん。我んぬ勉強や  
あんすかさびらんしが、「忘年会」と「夏の宴」ん  
かえー出じとーいびーん。「夏の宴」ぬ会んじえー  
とーかち御祝ーさびーる場ぬあて、まるけーてーギタ  
ー持ち弾ちやいする事んあいびーん。

また「JR信濃町駅ぬ近辺」ぬ「沖繩クラブ」  
ぬ会ぬあて、色んな技持ちょーる人ぬ達が揃り  
て、「講演会・懇親会」ぬあいびーん。

くぬ会ぬ「忘年会」ー銀座ぬレストランをてさびー  
ん。会ぬ終わいまんぐる、ベートーベンぬ「喜びの

うた きよく うちな- ふう- かしち  
歌「ぬ曲んかい沖縄ぬ「かじゃで風」ぬ歌詞付きて

ういちよ- うた はね う  
会長が歌で華一かち終わやびーん。

わ 我んねーじめ会んじん歳ぬ番一若さる内んかい入っ

ちよーいびーしが、八十超ゆるしーじゃ方から若さ

しえー二十歳まんぐるぬ人ぬ達が揃りやびーん。

うりから J R 新橋駅ぬ側んじえー「沖縄料理

てん 店」ぬあて、んまんじえー「四水会」んで言う会ぬ

あいびーん。くれー、ゆれー小する会やいびーしが、

ゆれー終わて後一ゆんたくふんたくっし親睦会そー

いびーん。しんかぬ達ぬ半分一和大ん人やいびーん。

くれぬ会ぬ「忘年会」一白銀台をてさびたん。

うちな- はな とーちよー うみ  
沖縄から離りと一る東京をて、思んちゃきらん『沖

な- うなか- どちえ  
縄』御仲さがち一、時一よーんなーよーんなーし  
りやびーん。



たましえ うちな- ちゆ しー  
魂一沖縄ん人(4) 新垣清松(横浜市)

んじや じゆーごち にじゆーはちにち わ あなくうや うっと  
去る十月二十八日に我ん女親ぬ妹一まーし

みしえーびーたん。沖縄からうぬ事にちーで電話ぬ

あいびて、我んねーうぶどんもーいっし、ふっちーゆ

っちー涙落とさびたん。

としえ ひゃーくにーな わか どち  
歳一 百二成と一みしえーびーたん。若さる時ぬ

をばまーうびん ひこーき なか なだ と  
叔母覚出じゃち、飛行機ぬ中をてん涙一止みらん、

うっさぬ涙一何処から湧ち来ゆーがやーんでち、いち

ふるまさ思とーいびーさ。

わ うや へん  
我ん親一ペルーんかい行じよーいびーてーくと、我

んねー年寄ぬ厄介成とーいびーたん。童やいびーて

ーくと、若さる叔母親ぬ如思とーいびーたん。また我

んねー愛ささつとーいびーたん。

うぬ時分、をばまー あーし なかどー まちやごん  
うぬ時分、叔母や泡瀬ぬ中通いんかい町屋小出じゃ

ち商一そーみしえーびーたん。島米、内地米、餅米、

うりから 卵、 鰹節、まー油、メリケン粉、ケロ

シンそーな物売と一みしえーびーたん。

またミシン二ち置ちきて、二人ぬんみー達が動かち

うんどーい はちまきのー はんじよー  
運動会ぬ鉢巻縫たいっし繁昌そーいびーたん。

うちな- ち なちえ ふ  
御客一か一まあぎからん来やーびーくと、夏一冷

じゆる水小出じゃち、冬一熱こーこー御茶うさぎて

あちね はなしごー なち あち どち  
商一ぬ話小そーみしえーびーたん。夏ぬ暑さる時

に御客ぬ「おばさん、あんし暑さいびーるやー」ん

て言びたくと、をばまー うちな-  
で言びたくと、叔母や「あんしえー、沖縄やるむん

ぬーにちあち  
毎日暑さどある」んで、あん言みしえーびーたん。

をばまーちも  
叔母肝一ちゃーさーじゃーどそーいびーたさ。

あーどち たーどない に あがりじよー  
或る時、「いつ達隣ぬ寝んと一みしえーる東門

ぬあんまーんかい此りうさざれー、銭一何時やてんし

むさ。」んで言びて、隣ぬ女んかい鰹節持たしみ

しえーびーたん。な一、肝宜さる人やいびーたん。

わ をばまー すの うむ しわ  
我んねー叔母や損一さんがやーんで思て心配そーい

びーたさ。

ちとむ あちね ふる いくさゆー う ゆが  
夫持っちから商一ん広みて、戦世ん終わて、世界

報成てさくと富村 商 事んて言るまぎ会社成とーい  
びーさ。

やまとゆーな とみむらしょーじ かんづみあちね むの にっほんいち  
大和世成て富村 商 事ぬ缶詰 商 一物ー日本ーやい  
びーん。

かんづみ なー  
うぬ缶詰ぬ名やチューリップんて言びーしが、かー  
まデンマークんて言る国から 多 く持ち来やーびー

ん。沖縄ん人ぬ噛み易さる如味小付きてーいびーく

と、沖縄ん人ぬすどみで物んかいんうぬチューリッ

プ缶詰ー良ー使ーつとーいびーさ。

くねーだ はなし ふんとー  
此間、テレビからうぬ話 そーいびーてーくど本当や  
いびーさ。

とばまー くじゅーあま ふいさ ふいちよー  
叔母や九十 余いまでん会社ぬ会 長 そーみしえ

ーたくと、三十 日ー那覇ぬ大典寺をてぬ茶毘ーう

ふいー事やいびーたん。

とばまー うかじ わ くー じぶん  
叔母ぬ御蔭っし、我んにんかえー小さる時分から

うちなー たましい うむ  
沖縄ぬ魂 入っちゃんて思とーやびーん。

おばさんさい！一杯にふーでーびる。

\*\*\*\*\*~\*\*\*\*\*

ぼーねんかい  
「忘年会」



しわーしゅっか ぼーねんかえ いっぺーはね うたび  
師走四日ぬ「忘年会」一、一杯華ーかち御賜みそ

ーち、にふーでーびたん。うたうた ちど うちなーぐち  
歌歌たい、踊たい、沖縄口

しばい  
っし芝居さい、またフラダンスん飛んじて、一杯見事  
やいびーたん。

う  
終わいねー、皆さーに「かちゃーしー」っし盛り立て

て、いー「忘年会」成いびたん。としあ  
年明きてやーのー、

しちぶち なつ うたげ なま うちなー  
七月まんぐる「夏の宴」ぬあいびーくと、今から沖縄

ぐち しばいちゆく うちなーぐち かんげ  
口っし芝居作たい、また沖縄口っしスピーチ考ー

て稽古そーち呉みそーりよーさい。

やーぬん皆さーに気掛きて勉強っし行ちゃびら。

國吉(眞)

## 事務局から

本年最後の第四号となりました。今回も大変貴重な  
話題を寄せていただき、有難うございました。お陰様  
で目標通り第四号を発行することができました。

最近ある会の席でうちなーぐちについて議論する  
機会がありました。ある沖縄の方が方言を使っている  
のは教育レベルが低いと言う内容のことを発言して  
いましたが、明解な理由なしの発言でしたので情けな  
く思いました。

沖縄の言葉には、あるいは日本の各地域の方言も同  
様だと思いますが、共通語にない豊かな表現を持って  
いると思います。従って共通語を補完しながら言葉の  
素養を深め心豊かな表現ができるようにしたいと言  
う立場を私は取っているのですが、皆さんは如何でし  
ょうか。

来年もたくさんの原稿をお待ちしております。  
会員以外の方々もご興味がありましたら是非寄稿し  
てください。沖縄文字への変換は事務局で行います。  
また原稿は趣旨を変えないで手直しをする場合があ  
りますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。  
そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできません  
ので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ

事務局 國吉 眞正 044-988-8065

FAX 044-988-8065

## 第四号

語句の説明（中繩語辞典、広辞苑による）

あーりきさる<sup>はなし</sup>話：面白い話。楽しい話。

いぬ物<sup>むん</sup>：同じ物。

嬉<sup>うっ</sup>さん：うれしい。

どー易<sup>やし</sup>むん：容易なこと。やさしいもの。

うーまく同<sup>どし</sup>士：わんぱく友。

系<sup>けい</sup>ーか：親戚。親類。

ふらゆん：つきあう。交際する。

なやがゆん：思い上がる。うぬぼれる。

じゃまどゆん：うろたえる。とまどう。

あながちさん：なつかしい。

すーじ：小路。路地。横丁。

ふるましー力<sup>ちから</sup>：不思議な力。

御賜<sup>うたび</sup>みしえーん：賜る。下さる。

「呉<sup>く</sup>ゆん」の敬語。「呉<sup>く</sup>みしえーん」より丁寧。

うふむにー：ほら吹くこと。

ばかーじ：ばかり。語形は他に「ばかー、ばかーい、ばかーん、びけー、びけーい、びけーじ、びけーん、びかー、びかーい、びかーじ」など多様な形で現れる。

あつたに：にわかに。不意に。

肝<sup>ちむ</sup>んやーやーと成<sup>な</sup>ゆん：心も静まる。また、ほっと安心する。

あまくま：あちこち。あちらこちら。

しーじゃ方<sup>かた</sup>：年上の人たち。先輩たち。

いふ<sup>ふ</sup>小うんぬきやびら：少し申し上げます。

さーふーふー：ほろ酔いのさま。一杯機嫌のようす。

ちびらーさん：きびきびして気持ちよい。

あんすか：それほど。さほど。

とーかち御祝<sup>ういそ</sup>ー：八十八のお祝い。

まるけーて：まれ（に）、たま（に）

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

ゆれー：無尽講。頼母子講。「むえー」ともいう。

ゆんたくふんたく：むやみにしゃべるさま。べらべら。

しんかぬ<sup>ちやー</sup>達：皆のもの。

思<sup>うみ</sup>みんちやきらん：思いがけぬ。意外な。

御<sup>うなかー</sup>仲さがちー：共有しながら。目上の人と共有する場合などにいう。

よーんなー：ゆっくり。

しりゆん：おそくなる。時節が過ぎる。

まーすん：死ぬ。なくなる。

うふぞんもーい：びっくり仰天。飛び上がって驚くこと。

ふ<sup>ふ</sup>っちーゆっちー：一日中。朝から晩まで。

うっさ：それだけ。それだけの数量。

いちふるまさん：大変不思議である。

愛<sup>かな</sup>さん：かわいい。愛らしい。

ん<sup>たー</sup>みー達：ねえさん達。

かーま：遠方。遠く。

あぎ：陸。おか。

うさぎゆん：さし上げる。

さーじゃーと：さっぱりと。「肝<sup>ちむ</sup>んさーじゃーと成<sup>な</sup>ゆん」：心がさっぱりする。

す<sup>むん</sup>ぞみ物：朝飯。

う<sup>くど</sup>ふー事：大きな事。盛大な事。

華<sup>はね</sup>ーかすん：にぎやかにする。

盛<sup>む</sup>い立<sup>た</sup>ゆん：盛り上げる。

やーん：来年。

気掛<sup>ちが</sup>きゆん：精出す。励む。

# 沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

ど [tu]    ぞい(鳥) うど(音) みーど(夫婦)	ど [hwe]    ぞー(南) にぞーでーびる(有難うございます)
と [to]    とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he]    へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du]    ぞし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [ja]*    やー(君、お前) やん(言わない)
ど [do]    どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や [ja]    やー(家) やん(である)
て [ti]    てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ [ju]*    ゆん(言う)
て [te]    てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ [ju]    ゆんたく(おしゃべり)
て [di]    ふて(筆) ぬーてー(喉) てきやー(秀才)	よ [jo]*    よーいー(おさな子)
て [de]    てーじ(大変なこと) ちょーでー(兄弟)	よ [jo]    よーんなー(ゆっくり)
か [kwa]    かじ(火事) かっちー(ごちそう)	わ [wa]*    わー(豚) わーちち(天気)
か [ka]    かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ [wa]    わーむん(私のもの)
か [gwa]    にんかん(念願) かんく(頑固)	わ [wi]*    わー(上) わーりきさん(面白い)
が [ga]    がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	わ [wi]    ゐきが(男) ゐなぐ(女)
か [kwi]    かー(声) さっかー(咳) かゆん(呉れる)	か [we]*    かーきー(金持ち) かんちゆ(ねずみ)
き [ki]    きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	か [we]    ういかー(お祝) わじゃかー(災い)
か [gwi]    かーく(越来「地名」)	か [N]*    かみ(梅) かに(稲) かなじ(うなぎ)
ぎ [gi]    かーぎ(容ぼう)	か [N]    かに(胸) かみ(嶺井「地名」) かなど(港)
か [kwe]    かー(鍬) からじかー(髪きり虫)	い [i]*    じん(縁) いた(枝)
け [ke]    けー(かゆ) ちけー(使者)	い [i]    いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
か [gwe]    かったい(ぬかるみ)	ち [u]*    ちど(夫) ちーじ(さとうきび)
げ [ge]    げー(害) にげー(願い)	う [u]    うど(音) うーび(帯)
か [hwa]    かー(葉) なーか(那覇)	え [e]*    えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha]    はる(畑) はぎもー(荒地)	え [e]    えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
か [hwi]    かいじゃい(左) かーど(いるか)	お [o]    おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi]    ひやみかすん(えい、と言う)	を [o]    をーじ(王子) をーれー(往来)

[ ]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

\* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例    ぞい(鳥) ×ぞい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。